

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	2173100583		
法人名	医療法人社団 浅野会		
事業所名	桜ヶ丘グループホーム		
所在地	岐阜県可児市桜ヶ丘6丁目73-11 (電話) 0574-64-0263		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年11月1日	評価確定日	平成19年11月30日

【情報提供票より】 (平成 19 年 10 月 10 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人 常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 14.4 人		

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	26,250~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (262,500円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	575 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,225 円	

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 11 月 1 日 現在)

利用者人数	13 名	男性	1 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低	80 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 浅野会 西可児医院、田中歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

可児市の丘陵地にある静かな地域にデイサービス・ショートステイと併設してホームがある。法人理事長は在宅医療の先駆者であり、終の住処としてのホームを建設し、管理者以下職員がその思いを汲み取り、日々、ケアと支援に取り組んでいる。広いリビングには明るい光が入り、居室には洗面所とトイレが備えられるなど利用者が少しでもゆったり生活できるよう、「自分らしく生きること」の理念が実践できる造りになっている。廊下やリビングは取り外し可能な正方形のカーペットを敷き、居室の窓の高さは高齢者の身長に合わせるなど設計の段階から利用者の高齢化を見据えて建物が造られている。職員は利用者のペースを尊重し、したいこと・できることを把握し、日々、暖かく見守っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題の「職員会議とその記録」については毎月会議が行われるようになり、職員が入れ替わることによってケアと質の向上もされ、ホーム全体で前回の要改善項目に真摯に取り組むなど大きな改善の努力が見られた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員の意見も取り入れ作成しており、評価項目を通して日頃のケアに活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、行政・自治会・家族・民生委員・理事長も参加し、家族からの提案や意見も多く、地元に関わり関係作りに努力している。他のホームとも連携を深め、災害時や緊急時等、問題解決に結びつけていけるよう行政への働きかけも含み、一層の努力に期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問は多く、来所時に利用者の状況報告や相談をしている。また、毎月家族に渡すホーム便りには利用者の笑顔の写真も添えられ、ホームで暮らしていても「常に家族と共に」という理事長と管理者の思いが感じられる。母体が医療法人であり、理事長による定期的な往診を行い、また、管理者が看護師であることも家族の不安の解消にもなっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し、花いっぱい運動や地域の小学校の運動会に招待され利用者が大いに声援を送るなど、地元にとけこんだ交流がある。また地域の図書館にも職員と共に行き、読む本を選んだり、天候に合わせて買い物や散歩、喫茶店に出掛け、住民と挨拶し合うこともある。利用者は、日々、ホーム内の暮らしに安心感を持ち、穏やかに過ごしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「老いても個人として尊重され、自分らしく生きることを大切に」という理念は、母体の医療法人全体で統一されており、地域密着型施設として、日々、努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	医療も含め、利用者がそのまま安心して暮らせるよう、理事長・管理者・職員は常に理念を認識してケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の花いっぱい運動の参加やホーム前の落ち葉掃除を行う人への差し入れを計画するなど、地域住民と共に暮らす大切さを認識する取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価の意義は職員会議で話し合い、意見も取り入れて作成し、前回の改善事項である、記録物や職員の対応はできることから改善と修正をしており、質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、行政・自治会・家族・民生委員・理事長・管理者で構成され、約半数参加する家族から公園で行事がある等地域の情報も得、提案や意見も出しやすい場になっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回行われる運営推進会議には市職員の参加があるものの、ホームから市・行政への積極的な働きかけはみられない。	○	利用者の入居状況やホームの情報を行政に伝え、連携を深めることは地域密着型としての根付いたケアにもつながるため、ホームからの投げかけに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	地元出身の利用者が多く、家族の訪問は毎日や週に2回など、こまめに足を運んでおり、金銭や体調の変化は、随時、報告している。また、ホーム便りは利用者のにこやかな写真も添えて毎月作成し、配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関外に投書箱を設置し、また、運営推進会議でも家族は気軽に意見が出しやすい環境にあり、市の介護相談員も受け入れるなど外部から率直な意見をもらえるような配慮をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	理事長の考えではほぼ全員が正職員の待遇であり、現在は離職がなくなった。また、職員のミーティングは超過勤務とする等の配慮がある。	○	休憩時間の確保は職員のストレス緩和にもなり、ひいては事故防止やヒヤリハットにもつながるので職員の休憩とその場所の確保について、今一度考慮されたい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は職員が有休を取って自主的に参加している。その前向きさはよりよいホームへ、との熱い思いが感じられた。研修後の報告会は毎回行われ、記録し、全職員が把握できるように回覧している。管理者とベテランの職員が若い職員をフォローしながら次代への育成にあたっている。</p>	○	<p>申し送りや報告会の記録回覧については、閲覧したことが職員の署名や押印などにより分かるようにされたい。また、感染症・急変時の対応は全職員が行えるよう繰り返し、定期的な勉強会等を考慮されたい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他ホームとの交流は管理者の個人的付き合いに限られており、相互に学びあい、連携していけるような取り組みはまだなされていない。</p>	○	<p>同法人内だけでなく、他ホームとの交流を通じ、日々のケアの振り返りや災害時の連携、また、交換研修することで、一層、よりよいホームの向上につながると思われるので一考されたい。</p>
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>同法人内のデイサービス利用からホーム利用につながったり、体験入居の形でショートステイを利用するなど、職員や利用者と徐々に顔なじみになるよう、利用者の不安を取り除きながら、自然な形で入居できる配慮がされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>管理者と職員は努めて利用者と話す機会を設けており、その際は手を触れ合うなど優しく話しかけている。職員が個人で買った三味線や大正琴を使い、利用者が弾いて職員に教えるなど、共に人生を過ごし、支えあう場面の一部を確認できた。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>居室担当制になっており、担当者が把握した利用者の情報は個別記録に記入され全職員が共有できる仕組みが取られている。利用者の希望を取り入れレクリエーション担当が計画を立て、さりげなくレクリエーションに誘ったり、本人のやりたいことを尊重している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全体のミーティングは月に1回、ユニット会議が月に2回あり、本人や家族の希望に沿った介護計画を居室担当者が作成している。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日職員間で時間をやりくりしながら、わずかな20分でも30分でも話し合うことで、介護計画の見直し等含め、利用者の小さな変化にも気づくことができるような配慮がされている。また、その内容は、必要時、家族にも報告され、職員間でも共有されている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>看護師でもある管理者の早め早めの対応により、入院回避などの対処がされている。また、母体の医療法人との連携は家族の安心感も得られている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療法人の理事長はかねてより在宅医療の専門医であり、週に1回の理事長自らの往診は利用者の体調管理と心の支えにもなっている。歯科医院への受診の通院は家族が行っており、都合によっては管理者が支援できる体制が取られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在まで看取りの事例はないが、医療法人が母体あり、病院の協力体制や具体的な看取りの指針と定義もできている。ホーム隣にクリニックを併設し、終末期介護と看取りができるよう計画をし、家族と利用者の安心感を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者に声をかけて居室に入ったり、居室内のトイレの掃除の際にもさりげなく排泄チェックをするなど、その人その人の尊厳を大切にしたい心づかいがある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングのテーブルには席に名前が貼ってあり、自分の気に入った席で穏やかに食事をしている。食後は居室で過ごす方、リビングで過ごす方、それぞれ、のんびりと思い思いに過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事内容はデイサービスやショートステイと同じである為、厨房専門業者に一括委託しているが、誕生日には豪華な内容になり、ケーキで祝うなどの配慮がある。職員は利用者と静かに会話をしながら見守りをし、必要時は食事介助もさりげなく支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、職員配置の時間帯を調整して毎日全員が日中浴を行っている。ゆっくりとその人のペースで入浴し、日々の楽しみの一つとなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	中庭に小さな畑があり芋の収穫をするなど、その人その人の好みに合わせて楽しみ事を支援している。また、週に2回の散歩や外出は順番に行なったり、花が咲き乱れる庭には自由に出入り、ベンチでゆったりと時間を過ごす方もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩は天候を見て行い、利用者が連れ立って敷地回りを歩くのも自由である。「行ってきまーす」「行ってらっしゃーい」と、利用者と職員が交わすその声は、グループホームで共に暮らす大切さを物語っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は日中はされておらず、夜間のみである。庭への出入りも自由にできるなど、開放感が漂うホームである。現在、利用者は落ち着いており、だまって出ていく方はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡先や連絡方法は一覧表として事務室内に掲示してあり、年に2回の避難訓練が行われている。	○	消防署立ち会いの訓練のみならず、地域の協力体制が得られる関係づくりや備蓄品・飲料水などの整備が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランスのチェックやカロリー計算がされており、水分もこまめに摂取し、その量も個別記録表にチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは庭が望める窓から明るい光が入り、食堂と廊下の室温は毎日3回測定し、過ごしやすいう換気にも気をつけている。床のカーペットは正方形で汚れた部分のみ交換できるような配慮がある。廊下の隅には長いですが、玄関外・庭にもベンチが配置してあり、利用者がホッとできる空間がさりげなく作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレと洗面所があり、利用者は自分のペースで生活できる室内になっている。押入れもあり、利用者が居心地よく、かつ、快適に過ごせる配慮がある。タンスの上には位牌が置かれたり手芸品が飾られて、それぞれ個性ある居室になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。